

平成27年3月10日
国立大学法人東京大学大学院農学生命科学研究科
(株)メリーチョコレートカンパニー

記者会見 開催のお知らせ

「地熱を活用した熱帯原産有用植物の国内生産とその利用に向けた共同研究を開始
樹芸研究所とメリーチョコレートカンパニー」

1. 会見日時：平成27年 3月19日（木）11：00～12：00

2. 会見場所： 東京大学農学部 弥生講堂アネックス セイホクギャラリー
(弥生キャンパス：文京区弥生1-1-1) (別添地図参照)

3. 出席者：

鴨田 重裕 (東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所 准教授)

吉田 宏 (株)メリーチョコレートカンパニー 代表取締役社長

小池 真 (株)メリーチョコレートカンパニー 生産本部製品開発室 製品開発部 部長

4. 発表内容：

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所と株式会社メリーチョコレートカンパニーは、熱帯原産の農作物（本研究では主にカカオ）について、地域の特性を生かした生産・利用システムの日本国内における構築を目的とし、共同研究を行うこととなりました。

本共同研究では、樹芸研究所および(株)メリーチョコレートカンパニーは、以下の研究を進めます。

- ① 熱帯原産有用植物の日本国内における増殖・栽培に関する研究
- ② 国産熱帯原産有用植物を商用利用する生産システム構築に関する研究
- ③ 希少植物の保存に関する研究
- ④ 成果を大学教育および生涯教育に資する研究

樹芸研究所では、誰もが口にできるチョコレートが、カカオノキを育てるところから製品に加工され、流通するまでを提示することを一つの教材と捉え、普段考えることもない、商品が完成するまでのプロセスを意識させる教育を実現したいと考えております。この教材をさらに優れたものにするために、(株)メリーチョコレートカンパニーの有する技術を生かし、現有するカカオの増殖および、クリオロ種カカオ（注1）のような希少種を健全に育苗する技術の確立を行います。さらにクリオロ種カカオのように上質であるものの病害虫に弱く生産量の少ない希少種の遺伝子資源の保存を行い、希少種を健全に育苗する技術の確立を目指します。

さらに(株)メリーチョコレートカンパニーは、国産カカオの利用を進めるに当たり、地熱を利用した国内でのカカオ栽培の研究や稀少品種の保存をし、カカオの栽培からチョコレート

になるまで、すべての工程を作り手がける「ビントウバー」により「純国内チョコレート」を作り、商用利用することを目指します。

静岡県賀茂郡南伊豆町にある樹芸研究所は、1943年に熱帯・亜熱帯の特用樹木（注2）の研究施設として設立され、また温泉熱を利用した温室では熱帯・亜熱帯の植物、カカオ、バニラ、キャッサバなど約300種を栽培・展示しています。また保有するクスノキ人工林は、2013年度林業遺産（No.8）として認定されました。

（株）メリーチョコレートカンパニーは1950年に創業し、高級チョコレートをはじめとするギフト菓子の製造、販売をしております。日本国内では、百貨店、量販店、駅、空港などで約二千店の常設ショップを展開し、海外では台湾、韓国、香港、シンガポール等、主にアジアに出店しております。1958年に女性から男性へのバレンタインを日本で初めて提案し、広めたメーカーとしても知られています。

5. 注意事項：

3月19日（木）午後1時までの公表は、お控えください。

6. 用語解説：

（注1）クリオロ種カカオ：カカオノキ(*Theobroma cacao*)の品種の一つ。生産量の90%を占めるフォラステロ種に対して、1%未満というクリオロ種。その両者のハイブリッドのトリニタリオ種。

（注2）特用樹木：用材・薪炭以外に葉・樹皮・果実などを利用する樹木を言う。樹芸研究所には根・幹・枝・葉から樟脳を採るクスノキ、葉から油を蒸留するユーカリ、実から油を採るアブラギリ・ツバキ、実からはぜ蠟を採るハゼノキなどがある。

記者会見会場建物案内図:

東京大学弥生講堂アネックス セイホクギャラリー(弥生キャンパス:文京区弥生1-1-1)

